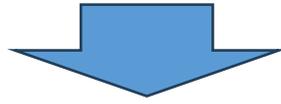


## 低学年分科会として、目指す児童像

言葉や文に注目し、それを基に自分の考えをもち、伝えることができる児童



### 目指す児童像に迫るための手立て

- ・ これまでに学習した教材文で習得した言葉を教室に掲示する。
- ・ 新たに習得した言葉を使って、短文作りをする。
- ・ 授業、家庭学習で毎回音読活動に取り組みさせる。特に、授業では個人で声に出して読んだり、一斉で声を揃えて読んだり、さまざまな方法で繰り返し音読をさせる。

- **単元名** 「こえに出してよもう」 教材名「おとうとねずみチロ」東京書籍
- **本時** 第7時（全9時間）
- **本時の目標** 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。
- **本時の手立て**

#### 教材文を読み取るための手立て

全体での読み取りの際には、「どのように言ったのか。」「何をしながら言ったのか。」「なぜそのような行動を取ったのか。」などを問い、児童が叙述から具体的に人物の行動を想像できるようにした。また、汎用性のある発問を繰り返し投げかけることで、教材文が変わっても、文学的文章を読む際にはどのようなことに注目して読み進めればよいのかを意識させるようにした。



#### 音読の仕方を考えるための手立て

読み取った内容をもとに、音読の仕方を個人で考える際には、『声の大きさ』『動き』『表情』『強さ』などの視点から想像させるようにした。音読の仕方だけでなく、その理由も考えさせることで、より読みが深まると考えた。全体で交流する際には、音読の仕方やその理由から更に掘り下げた発問をし、場面を超えた読み取りができるようにした。

### ○成果と●課題

- 叙述を丁寧に取り上げ、読み取りをすることができた。「かけのぼる」という叙述から「のぼる」との違いを意識させ、行動をより具体的に想像させたり、「さげびました」という叙述から『声の大きさ』や『動き』を考えさせたりした。一つひとつの言葉の表現に注目し、その違いや表していることを全体で取り上げることで、言葉を大切にしている意識が少しずつ育ってきた。
- 前時までの学習の積み重ねを本時でも生かすことができた。一つの場面だけに注目するのではなく、場面の繋がりや人物の変化などに注目しながら本時の場面の読みをより深めることができた。
- 本時では、音読の視点で『声の大きさ』を選ぶ児童が多かった。さまざまな視点を選べるように、提示する視点を吟味する必要があった。より多くの視点から考えることで、読みを更に広げたり、深めたりすることに繋がるのではないかと考えられる。

## 中学年分科会として、目指す児童像

語彙を豊かにして、想像したことや考えたことを伝えることができる児童



### 目指す児童像に迫るための手立て

- ・ 語彙を増やすために、年間を通して言葉集めをする。      ・ 言葉に注目させ、意味を調べる。
- ・ 言い換え。類語探しをする。      ・ 習得した語彙を使う場面を設定する。
- ・ 2つの詩を比べて読む。      ・ 理由をもって発表をする。

- **単元名**                      「詩を読もう」教材名「ふしぎ」「よかったなあ」東京書籍
- **本時**                        第2時（全2時間）
- **本時の目標**                言葉に注目し、詩の良さを相手に伝えることができる。
- **本時の手立て**

#### 習得した語彙を使うための手立て

語彙を習得し、活用して表現する学習活動を意図的に設定することで、児童の思考力・表現力の高まりを図る。これらの学習活動を積み重ねていくと、他者に伝えることができた実感が得られるのではないかと考えた。「詩の良さ」を相手へ説明するために、「語彙集め」をした掲示物や「意味調べ」をして習得した言葉を用いて伝え合う学習活動を設定した。



#### 理由をもって発表するための手立て



思考力を高めるためには、考えを述べるだけでなく、「なぜ、そう思ったのか。」という理由を明確にして伝えられる力を育てることが重要だと考える。そのため、学習場面で意見や感想を発表させる際は、必ず理由を添えて話すように指導している。具体的な根拠や体験と結び付けて理由を説明させる活動を通して、自分の思考を整理し、筋道を立てて話す力につなげたい。本時では、自分の考えについて筋道を立てて話せるよう、「心に残った言葉」「理由」「どんな気持ちになるか」「伝えたいこと」を項目にしたワークシートを活用する。

#### ○成果と●課題

- 言葉集めをした掲示物があったことで、同じ意味でも様々な言葉を使って表現することができた。年間を通して、振り返りや感想、人物像を表す際にも、子どもたちが掲示物を見ながら考えている様子があり、単純な言葉で表すのではなく、より適した言葉で表現しようとする姿が多く見られるようになった。
- 意味調べをしたことで、言葉の意味を理解し、内容をより把握することができていた。どの単元でも初めに意味調べを取り入れ、言葉の意味を理解させた上でもう一度読み進めることで、より内容を理解しながら学習を進めることができていた。また、年間を通して意味調べを集めた冊子を活用して、自分の考えを立てていた。
- 言葉に注目することで、言葉から詩の良さを考えることができていたが、繰り返し使われている言葉や連など詩の構造に注目させることができず、詩を味わうという点において、情景などを想像できるように読ませる必要があった。

## 高学年分科会として、目指す児童像

文章を根拠に思考し、それを豊かに表現できる児童

## 目指す児童像に迫るための手立て

- ・意図的に音読活動を充実させ、文章を正しく理解できるようにする。
- ・投稿文の書き方、工夫の提示をする。
- ・論の始まりとなる「投稿1」を教師が作成、提示し自分の意見をまとめる。
- ・選べるテーマ設定にすることで理由や根拠をしっかりと考えられるようにする。
- ・説得力を増すために資料を精選して提示し、必要に応じて活用させる。

- **単元名** インターネットでの議論から考えよう「インターネットの投稿を読み比べよう」東京書籍
- **本時** 第4時（全5時間）
- **本時の目標** すすんで必要な情報を見付けたり論の進め方について考えたりし、学習の見通しをもって、それらをまとめようとする。
- **本時の手立て**

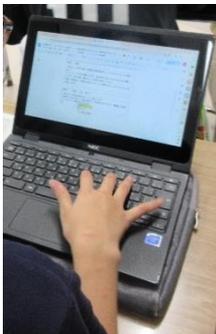
## 相手を納得させる投稿文を書くための手立て

投稿文の書き方を以下のような3段落構成とした。

- ①主張1（自分の立場）
- ②理由（事実や事例など、説得力を増すための工夫）
- ③主張2（意見の整理・主張）

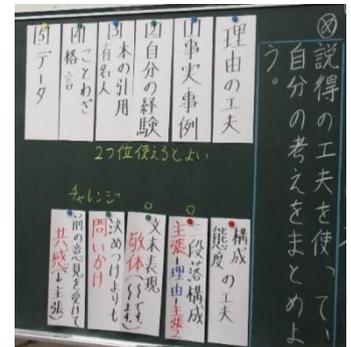
②の説得の工夫については、以下の点を挙げ、自分の意見をまとめる際に活用できるようにする。

- ・事実、事例
- ・自分の経験
- ・本の引用や有名な人物の言葉
- ・ことわざや格言
- ・データ（具体的な数値）



## 自分の考えを豊かに表現するための手立て

論の始まりとなる「投稿1」を提示することで、それを基にしてその意見に賛成したり、反対したりしながら自分の意見をまとめることができると考えた。一人ひとりが自分の考えをもち、理由や根拠をしっかりと考えられるようなテーマを分科会で検討し、「学校へ持って行くのは、ランドセルがよいかリュックがよいか」「お店で、レジ袋は有料がよいか、無料がよいか」の二つを提示する。二項対立型のテーマにすることで自分の立場を明確にしやすいよさがある。また、児童の生活経験を踏まえてテーマを選ぶことで、説得力のある理由や根拠を考え、表現する力が定着するのではないかと考えた。



## □ ○成果と●課題

- 教材文をしっかりと分析して読み、議論の流れを学んだことで、自分の考えを相手に伝える文章の説得力を増すための理由や根拠を積極的に考えることができていた。読み取ったことを基に、自分の経験や集計されたデータなどの説得の工夫を活用して文章を書き、より伝わりやすい文章にすることができた。
- ☆ タブレットを用いた活動によって個々の作業が中心となってしまった。お互いに書いた投稿文を交流する場の設定をする必要があった。

## 五組・専科分科会として、目指す児童像

音楽的要素やそのはたらきを生かして、思いや意図を伝えることができる児童

## 目指す児童像に迫るための手立て

- ・ 歌詞の様子を想像しやすくするための教科横断的な取り組みをする。
- ・ 歌を届ける相手を設定する。 ・ 思いと要素の結びつきを促すワークシートを活用する。
- ・ 音楽記号と曲想を表す言葉の常時掲示と日常的な意識化をさせる

- **単元名** 「思いを表現に生かそう」
- **本時** 第4時（全5時間）
- **本時の目標** 歌詞の内容や旋律の特徴、強弱記号に着目して、曲の特徴にふさわしい歌い方を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。
- **本時の手立て**

## 歌詞の理解を深めるための手立て

図画工作の時間に音楽教材の歌詞から読み取ったことを絵に表す活動を取り入れた。歌詞から想像できる風景や、色などをイメージして、表現することで、より歌詞の様子が明確化され、歌唱の際にも絵に描いた経験を生かして表現方法を思考しやすくなると考えた。



## 表現を文章で表すための手立て



児童が「どんな気持ちで歌うか」という抽象的な思いに留まらず、楽譜を読み取り音楽的要素を根拠として具体的な音楽表現に繋げられるようなワークシートを作成した。児童はまず歌詞から情景や気持ちを想像し、次にその思いを伝える手がかりとなる楽譜上の音楽記号や音の動きを分析し、最後に具体的な歌い方を言語化できるようにした。

## ○成果と●課題

- 歌詞の理解を深める手立てとして、図画工作の時間に歌詞の内容を絵に表現する活動を取り入れたことで、一人ひとりが歌詞の情景や意味を自分なりに捉え、考えをもつことができた。
- 「誰に向けて歌う歌なのか」「どんな場面で歌うのか」といった発問を工夫したことで、曲に込められた思いへの理解が深まり、相手意識をもって歌おうとする姿が見られた。
- 曲想や曲の感じを表す壁面掲示やカードを用いたことで、歌う際の気持ちを具体的にイメージしやすくなり、児童が自分の思いが伝わるような歌い方の表現を考える際の手がかりとなった。
- 歌い方の工夫として強弱記号中心に着目する児童が多く見られたが、今後はより児童自身の感じ方や考えを大切にできるワークシート構成を検討していく。また、児童が工夫したい箇所を自ら選択し、自由に考えを表現できる形式を取り入れて、教師がその意見を共有・価値付けする授業展開を工夫していく。
- 時間配分については、個人で歌い方の工夫を考える時間は確保できたが、児童同士で試したり、互いの考えに触れたりする活動時間が十分ではなかった。導入の精選やワークシートの簡略化を図り、交流や試行の時間を確保する必要がある。
- 視覚的情報及び聴覚的情報の提示については、学習の助けとなる一方で、提示の仕方によっては児童の思考を限定してしまう可能性もあるため、ねらいに応じて、提示のタイミングや量をより精査する。